

●日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）7 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

▲ 福徳岡ノ場 [活発な状況] → [やや活発な状況]

2 日から 3 日にかけて小規模な海底噴火があった。その後、噴火は収まったが、変色水がたびたび観測されるなど、やや活発な状況が続いている。

▲ 桜 島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2^{（注1）}）]

爆発的噴火が 8 回観測されたが、散発的なもので、噴火活動は比較的静穏な状態が続いている。

▲ 諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

上旬に活動が活発になり、6 日に爆発的噴火が 4 回観測された。また 27～30 日にも活動がやや活発になり、27 日に噴火が観測された。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山】

● 十勝岳 [やや活発な状況]

62-2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。

● 樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群も高温状態が続いていると推定される。

● 浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、微弱的な火映がたびたび観測され、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

● 三宅島 [やや活発な状況]

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2004 年秋以降、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

● 阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）]

中岳第一火口浅部の熱的な活動は引き続き活発で、火口底の一部で赤熱現象が観測された。

● 霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。

● 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

期間中の火山活動は比較的静穏に経過したが、長期的にはやや活発な状態が続いている。

● 口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震が次第に増加し、19 日以降はやや多い状態が続いている。また、火山性微動も今期間に入って増加し、やや多い状態が続いている。

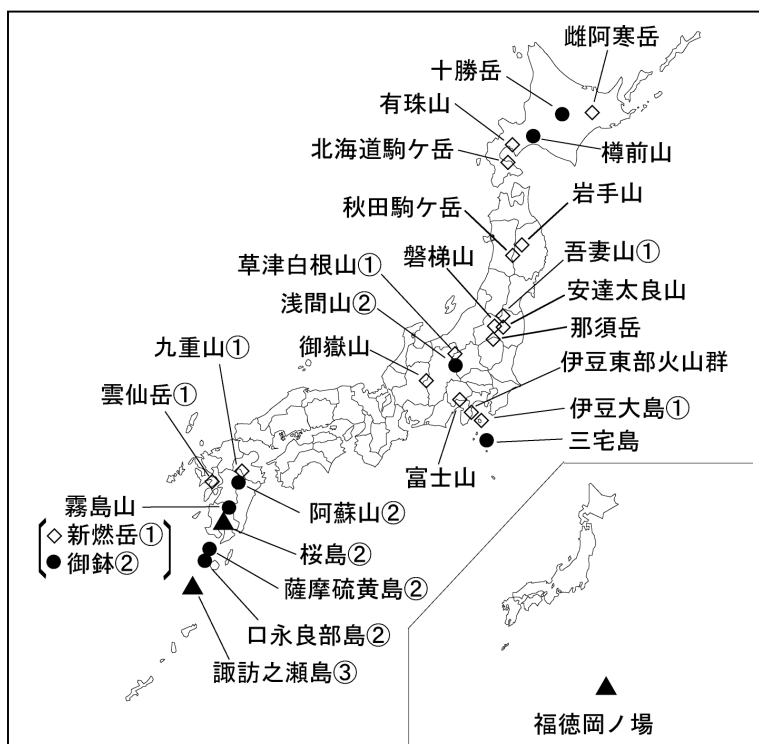


図 1 今回記事を掲載した火山

末尾の資料

- 過去 1 年間の火山活動の状況
- 期間中に発表した火山情報の一覧表

注 1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

注 2 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

各火山の活動解説

◇ 雌阿寒岳 [比較的静穏な状況]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は比較的静穏に経過した。

● 十勝岳 [やや活発な状況]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で推移した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化は見られていないことから、同火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

7 日 05 時 10 分頃から継続時間約 1 分の振幅の小さな火山性微動が観測された。微動の発生源は 62-2 火口周辺の浅部と推定される。微動の発生時、噴煙の状況は悪天のため不明であったが、地震活動や地殻変動には特段の変化はなかった。6 月 28 日（前期間）に発生した火山性微動に比べ規模は小さかった。

期間中、火山性地震の発生状況には変化はなく、GPS による地殻変動観測では火山活動に関連すると思われる変化は見られなかった。

● 樽前山 [やや活発な状況]

前期間と比べ、A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特に変化は見られていないことから、これらの火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、引き続き高温の状態が続いていると推定される。

火山性地震の発生状況に特に変化はなく、火山性微動は観測されなかった。また、GPS による地殻変動観測では火山活動に起因すると考えられる変化は見られなかった。

◇ 有珠山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 北海道駒ヶ岳 [静穏な状況]

GPS による地殻変動観測では、わずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴

気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 岩手山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 秋田駒ヶ岳 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。21 日に行った調査観測においても、噴気の状態、噴気温度、火山ガス成分等の観測結果に、前回（昨年 9 月）と比べ特段の変化はなかった。

◇ 吾妻山 [静穏な状況（レベル 1）]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 安達太良山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 磐梯山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 那須岳 [静穏な状況]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 草津白根山 [静穏な状況（レベル 1）]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

● 浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、微弱な火映がたびたび観測され、火山性地震及び微動の

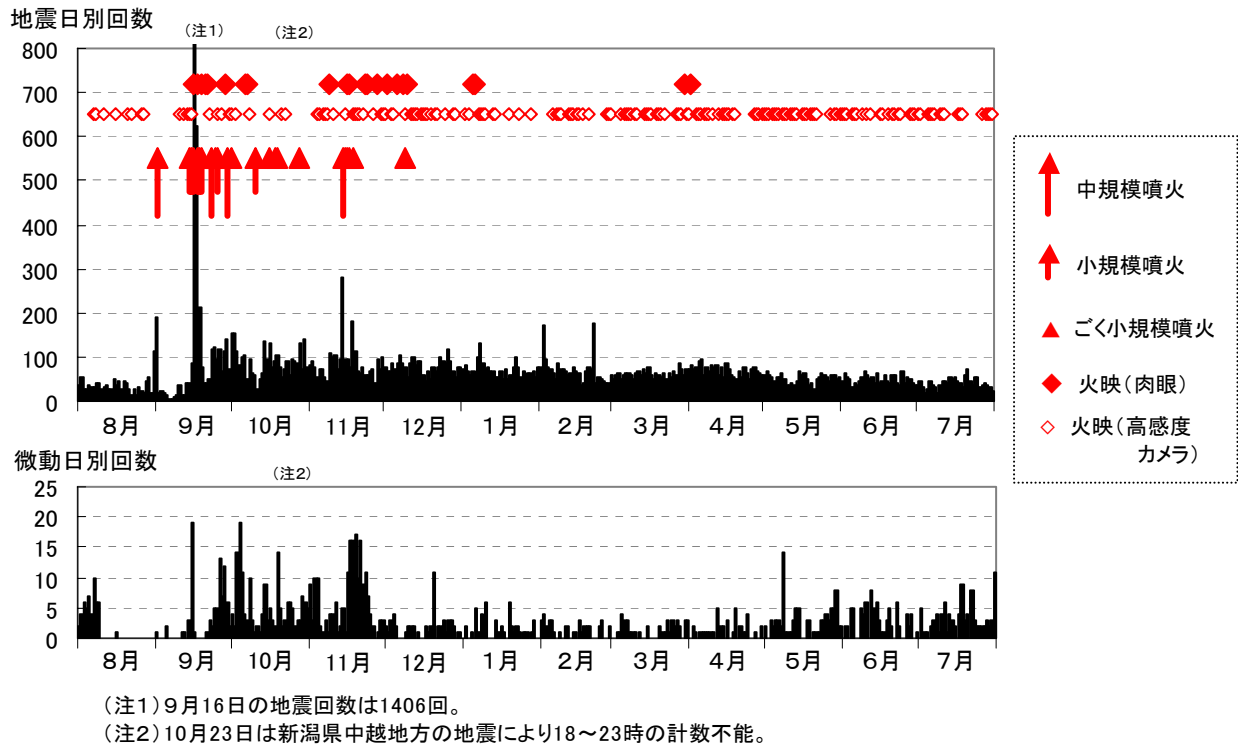


図2 浅間山 2004年8月～2005年7月の噴火、火映、地震及び微動の日別発生状況

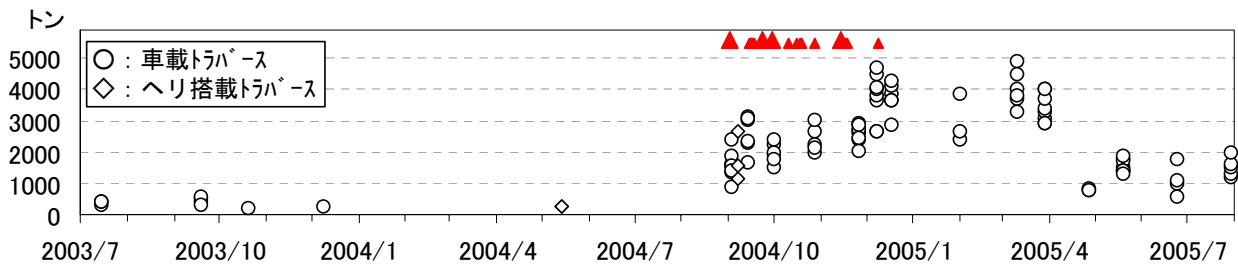


図3 浅間山 二酸化硫黄放出量の推移（1日あたりの量に換算）（2003年7月～2005年7月）
 大きい▲は中爆発、小さい▲は小噴火以下を示す。

やや多い状態が続いている。

山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、期間中の噴煙高度は概ね 200～300m で推移した。また、夜間に山麓の高感度カメラ¹⁾で微弱な火映がたびたび観測されており、火口内は引き続き高温状態が継続していると推定される（図2）。

29日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり 1,200～2,000 トンと引き続きやや多い状態が続いている（図3）。

5日に行った上空からの観測²⁾では、火口周辺に新たな噴出物は認められなかった。赤外熱映像装置³⁾による観測では、火口内に引き続き高温部が認められた。

火山性地震の回数は依然としてやや多い状態が続き、1日あたり 19～75 回で推移した（図2）。

震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約 1～3 km に集中しており、前期間までと比べ特段の変化はなかった。火山性微動の回数もやや多い状態が続いており、1日あたり 0～11 回で推移した（図2）。

傾斜計及びGPSによる地殻変動観測、光波測距観測では火山活動に起因すると見られる変化はなかった。なお、国土地理院のGPSによる広域の地殻変動観測によれば、浅間山周辺の基線では、昨年10月後半以降、ゆるやかな山体の膨張を示す伸びが観測されていたが、最近伸びの傾向が若干鈍化したように見られる。

1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。

- 2) 群馬県の協力により、気象庁と東京大学地震研究所が共同で実施。
- 3) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

◇ 御嶽山 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

◇ 富士山 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 伊豆東部火山群 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 伊豆大島 [静穏な状況（レベル1）]

7月1日に島の北西沖を震源とする地震がやや多く発生したが、その他の日は少なく、地震活動は低調な状態が続いている。地殻変動観測では、長期的な山体の膨張傾向は継続しているが、噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

● 三宅島 [やや活発な状況]

多量の火山ガスの放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出している。期間中の噴煙の最高は火口縁上 300mであった（前期間の最高は火口縁上 500m）。

12日に上空から行った観測⁴⁾では、山頂火口内の状況は雲のため確認できなかった。火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり 2,500~5,900 トンと依然として多い状態であった（図4）。なお、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

全磁力の連続観測では特に変化はみられず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

7月2日から3日にかけてと21日に火山性地震が一時的に増加し、1日あたりの地震回数は2日 80回、3日 325回、21日 92回であった。この間、空振を伴う低周波地震が3日に3回、21日に6回発生し、3日 10時 59分及び21日 07時 53分の地震では三宅村神着で震度1が観測された。3日の地震発生時の噴煙は雲のため確認できなかったが、その他の観測データには特に異常は見られなかった。21日の地震発生時には噴煙に異常は認められず、三宅島測候所の現地調査でも降灰は確認されなかった。空振を伴う低周波地震は16日にも4回発生したが、この時には目立った地震増加を伴わず、噴煙にも異常はなかった。

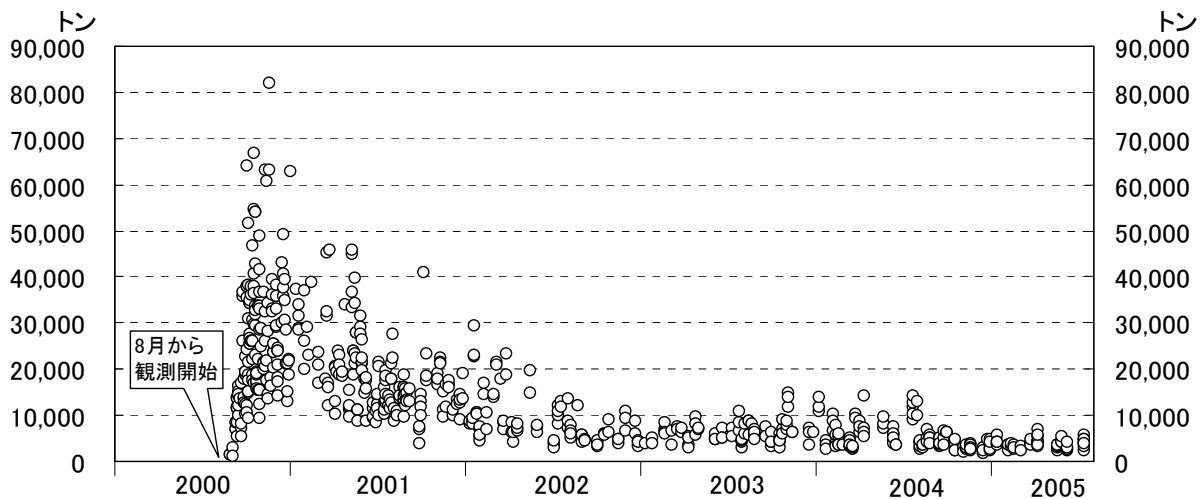


図4 三宅島 二酸化硫黄の放出量（1日あたりの量に換算）（2000年8月～2005年7月）
2004年秋以降は1日あたり2千～5千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

それ以外の日は地震回数の少ない状態が続き、1日あたり0～22回で経過した。また、火山性微動は観測されなかった。

GPSによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

4) 海上自衛隊の協力による。

▲ 福德岡ノ場 【活発な状況】 → [やや活発な状況]

2日から3日にかけて小規模な海底噴火があった。その後、噴火は収まったが、変色水がたびたび観測されるなど、やや活発な状況が続いている。

海上自衛隊によると、2日17時45分頃から福德岡ノ場で白色噴煙が目撃され、同日19時過ぎに行った調査で、海面から高さ約1,000mに達する白色噴煙と、海面上の幅100m、長さ300m程度の範囲に噴火によると思われる浮遊物が確認された（図5）。

3日に海上自衛隊及び海上保安庁が上空から行った調査では、白色噴煙の高さが低くなるなど噴火活動は次第に低下した（図5）。4日及び5日の上空からの調査⁵⁾では噴煙は見られず、3日までの噴火の浮遊物と変色水が確認される程度に収まっていた。その後、15日に海上自衛隊、17、20及び21日に海上保安庁が上空から行った調査では、変色水は観測されたが、浮遊物等は認められなかった。

20～22日に海上保安庁が行った海底地形調査

によると、今回の噴火で生じたとみられる2つの火口と、これらの火口のすぐ南側の地形の高まりが新たに発見された。

福德岡ノ場は、東京の南約1,200km、南硫黄島の北東約5kmにある海底火山で、1904～1905年、1914年に火山島「新硫黄島」を出没させる活動があった。1986年の噴火では長径600m、高さ15mの新島を生じたが、噴火後の海食によって消滅した。前回の噴火は1992年11月で、軽石の浮遊等が確認された。なお、この海域では変色水がしばしば確認されている。

5) 4日は海上保安庁と東京工業大学、5日は海上保安庁と気象庁が共同で実施。

◇ 九重山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 阿蘇山 【やや活発な状況（レベル2）】

中岳第一火口浅部の熱活動は引き続き活発な状態が続いており、火口底の一部では赤熱現象が観測された。

中岳第一火口底では、赤熱現象⁶⁾が25日に監視カメラ⁷⁾で確認され、27日夜の現地観測では湯だまり⁸⁾の南西側及び中央部で観測された。赤熱現象が観測されたのは6月24日（前期間）以来であった。

現地観測⁹⁾によると、火口内の湯だまりの表面温度は66～74℃と依然として高温で（赤外放射温度計³⁾による、前期間は68～75℃）、湯だまり



7月2日 海上自衛隊提供



7月3日 海上保安庁提供

図5 福德岡ノ場 噴火及び変色水の状況

左：7月2日 福德岡ノ場付近から噴煙が上がる（北約50kmの硫黄島から撮影。右側の島は南硫黄島）
右：7月3日 矢印地点から浮遊物・変色水がのびる（北東側上空から撮影。後方の島は南硫黄島）

内では引き続き高さ 1～5 m の小規模な土砂噴出が多数観測された。湯だまり量は、降水の影響により増加して 6 日には約 4 割となったが、その後は減少傾向が続き、22 日以降は約 3 割となっている。

火山性連続微動の振幅は、5 日から 26 日にかけてやや大きくなったが、他の観測データに特段の変化は見られなかった。

孤立型微動の月発生回数は 3,165 回と前期間（1,843 回）より増加し、やや多い状態で経過した。火山性地震の月発生回数も 477 回で前期間（298 回）よりやや増加した。孤立型微動、火山性地震ともに回数は増加したが、発生状況には大きな変化は見られていない。

噴煙の状況には特段の変化はなく、GPS による地殻変動の連続観測及び今期間実施した繰り返し観測でも火山活動に起因する変化はみられなかった。なお、国土地理院の GPS による広域の地殻変動観測によれば、阿蘇山を取り囲む基線では、2004 年後半頃から山体の膨張を示すわずかな伸びが観測されている。

6) 赤熱現象は、地下から高温の火山ガスなどが噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。阿蘇山では、赤熱域が拡大すると、火孔が開孔し、噴火活動が活発化したことがある。

7) 阿蘇火山博物館が中岳第一火口縁に設置。

8) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始める。

9) 現地観測を 6、15、22 及び 25～27 日に実施。

◇ 雲仙岳 [静穏な状況（レベル 1）]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

◇ 霧島山（新燃岳） [静穏な状況（レベル 1）]

地震活動は低調で、GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因する変化はみられず、火山活

動は静穏に経過した。

● 霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口内で 2003 年 12 月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、火口縁上 100m まで上がる噴気が観測された。

地震活動は低調で、火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因する変化はみられなかった。

▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

爆発的噴火が 8 回観測されたが、散発的なもので、噴火活動は比較的静穏な状態が続いている。

今期間、爆発的噴火（以下、爆発）が 8 回観測された。爆発は 8、10～11、18 及び 20～22 日に 1 日あたり 1～2 回程度発生した散発的なもので、8 日 23 時 32 分の爆発では弱い体感空振（注意深くしていると感じる程度）が鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で観測されたが、爆発音や噴石は観測されなかった。噴煙が確認されたのは 18 日 06 時 04 分及び 20 日 14 時 29 分の爆発で、その他は悪天等のため不明であった。噴煙の最高は 20 日の爆発による火口縁上 1800m（灰白色）であった。

期間中、鹿児島地方気象台では、降灰は観測されなかった（前期間は 6 月 8 日に微量の降灰量を観測）。

7～9 日に火山性微動が増加し、継続時間の短いものが 1 日あたり 7～10 回、継続時間が 1 時間を超えるものも 7 日に 2 回、9 日に 1 回観測された。この間、8 日の爆発（前述）以外に噴火は観測されなかった（9 日は悪天のため噴煙の状況は不明）。

火山性地震は長期的に少ない状態が続いている。GPS による地殻変動観測では、長期的な東西方向のわずかな伸びの傾向が続いている。

● 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

18 日に火山性連続微動が観測された。火山性連続微動が観測されたのは、昨年 10 月 26 日以来

であった。微動の発生時に、その他の観測データには特段の変化はなかった。

今期間、継続時間の短い火山性微動の発生状況、地震活動及び噴煙活動には大きな変化はなく、概ね活動は低調であったが、長期的にはやや活発な状態が続いている。

● **口永良部島** 【やや活発な状況（レベル2）】
火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

火山性地震が次第に増加し、19日に32回、25日に43回観測されるなど、やや多い状態が続いている。火山性地震の日回数が20回を超えたのは今年2月26日（27回）以来であった。月回数は327回で前期間（61回）より増加した。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動も月回数が134回と前期間（28回）より増加し、継続時間がやや長いものも発生している。

（図6）

監視カメラ¹⁰⁾による観測では、噴気等は観測されなかった。

10) 新岳の北西約4kmに設置。

▲ **諏訪之瀬島** 【活発な状況（レベル3）】

上旬に活動が活発になり、6日に爆発的噴火が4回観測された。また27～30日にも活動がやや活発になり、27日に噴火が観測された。

6月30日（前期間）～7月7日に振幅のやや大きな火山性連続微動が観測されるなど、上旬に活動が活発になり、6日に爆発的噴火が4回観測された。噴煙の状況は悪天のため不明であった。火山性地震もやや多く発生し、7月1～7日には1日あたり7～39回観測された。爆発的噴火が観測されたのは6月7日以来、振幅のやや大きな連続微動及び地震の増加が観測されたのは、5月下旬から6月初旬に噴火活動が活発であった期間以来であった。

また、27～30日にも活動がやや活発になり、27日に噴火が観測された。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、27日17時頃、火山灰を含む噴煙が高さ火口縁上800mまで上がり、南東に流れていた。28日に振幅のやや大きな火山性連続微動が観測された。29～30日には火山性地震がやや多く発生し、29日に81回、30日に64回観測された。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、期間中、集落（御岳の南南西約4km）で降灰はなかった。

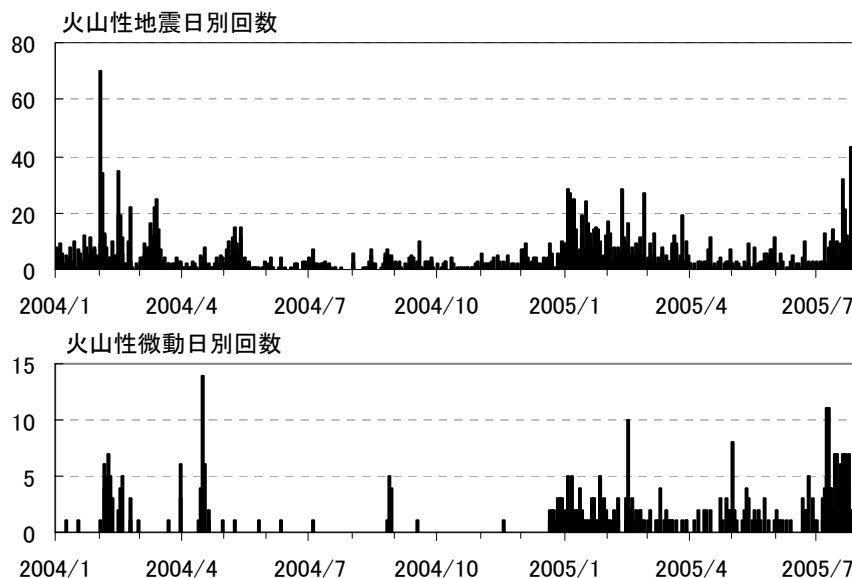


図6 口永良部島 火山性地震及び微動の日別発生状況
 (2004年1月～2005年7月)

資料 1 過去 1 年間の火山活動の状況

| 火 山 名 | 平成16年（2004年） | | | | | 平成17年（2005年） | | | | | | |
|---------|--------------|----|-----|-----|-----|--------------|----|----|----|----|----|----|
| | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
| 雌阿寒岳 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 十勝岳 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 樽前山 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 草津白根山 | | | | | ● | | | | | ● | | |
| 浅間山 | ● | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 三宅島 | ● | ● | ● | ▲ | ▲ | ● | ● | ● | ▲ | ▲ | ● | ● |
| 伊豆鳥島 | ● | | ● | | | | | ● | | | | |
| 西之島 | | | ● | | | | | | | | | |
| 福德岡ノ場 | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | ● | | ▲ |
| 阿蘇山 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ▲ | ● | ● | ● |
| 霧島山（御鉢） | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 桜島 | ▲ | ● | ● | ▲ | ▲ | ▲ | ● | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| 薩摩硫黄島 | ▲ | ▲ | ▲ | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 口永良部島 | ● | | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 諏訪之瀬島 | ● | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| 硫黄島 | ● | | | | | | | | ● | | | |

表 1 過去 1 年間に活動があった火山

▲：噴火した火山

●：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山

| 火 山 名 | 平成16年（2004年） | | | | | 平成17年（2005年） | | | | | | |
|----------|--------------|-----|-----|-----|-----|--------------|----|----|-----|-----|-----|----|
| | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
| 吾妻山 | | | | | | | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 草津白根山 | | | | | | | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 浅間山 | ② | ②→③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③→② | ② |
| 伊豆大島 | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 九重山 | | | | | | | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 阿蘇山 | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ②→③ | ③→② | ② | ② |
| 雲仙岳 | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 霧島山（新燃岳） | | | | | | | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| （御鉢） | | | | | | | ② | ② | ② | ② | ② | ② |
| 桜島 | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② |
| 薩摩硫黄島 | | | | | | | ② | ② | ② | ② | ② | ② |
| 口永良部島 | | | | | | | ② | ② | ② | ② | ② | ② |
| 諏訪之瀬島 | | | | | | | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ |

表 2 過去 1 年間の各火山の火山活動度レベル

資料 2 2005 年 7 月の火山情報発表状況

| 火山名 | 情報の種類及び号数 | 発表日時 | 概要 |
|-------|----------------------------------|-------------------------------|---|
| 浅間山 | 火山観測情報第 177 号 | 1 日 16:00 | 6 月 24 日～7 月 1 日 15 時の活動状況（噴煙量、火山ガス放出量、地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 178 号 | 8 日 16:00 | 7 月 1 日～7 月 8 日 15 時の活動状況（上空からの観測結果、噴煙量、地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 179 号 | 15 日 16:00 | 7 月 8 日～7 月 15 日 15 時の活動状況（噴煙量、地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 180 号 | 22 日 16:00 | 7 月 15 日～22 日 15 時の活動状況（噴煙量、地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 181 号 | 29 日 16:00 | 7 月 22 日～29 日 15 時の活動状況（噴煙量、地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測）。火山活動度レベルは 2。 |
| 三宅島 | 火山観測情報第 361～422 号 （1 日 2 回発表） | 1～31 日 （09:30 及び 16:30） | 前日 16 時～当日 09 時もしくは当日 09～16 時の活動状況及び上空の風の予想。 |
| 福徳岡ノ場 | 火山観測情報第 1 号 | 3 日 19:30 | 海上自衛隊及び海上保安庁の観測により、小規模な海底噴火が確認された。 |
| 阿蘇山 | 火山観測情報第 33 号 | 1 日 11:00 | やや活発な火山活動が継続（赤熱現象が継続）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 34 号 | 8 日 11:15 | やや活発な火山活動が継続（降水により湯だまり量増加、連続微動の振幅やや大きくなる）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 35 号 | 15 日 11:10 | やや活発な火山活動が継続（中岳第一火口内の状況、連続微動の振幅には大きな変化はない）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 36 号 | 22 日 11:00 | やや活発な火山活動が継続（中岳第一火口内の状況、連続微動の振幅には大きな変化はない）。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 37 号 | 29 日 11:20 | やや活発な火山活動が継続（赤熱現象を観測、26 日から連続微動の振幅減少）。火山活動度レベルは 2。 |
| 口永良部島 | 火山観測情報第 20 号 | 19 日 13:20 | 火山性地震が増加。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 21 号 | 22 日 13:30 | 火山性地震のやや多い状態継続。火山活動度レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 22 号 | 25 日 19:30 | 火山性地震が増加。火山活動度レベルは 2。 |

世界の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）7 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

アナタハン火山（マリアナ諸島）（図中 A）

噴火活動は今期間を通して活発で、頻繁に火山灰を噴出した。特に、3 日、6 日及び 21 日に規模の大きな噴火があり、噴煙が 3 日及び 6 日には海拔約 12km、21 日には約 16km まで上がった。3 日の噴煙は南～南南東に流れ、一部はサイパン島やテニアン島上空に達した。

コリマ火山（メキシコ）（図中 B）

噴火活動は今期間を通して活発で、たびたび小規模な噴火が発生した。5 日にはやや規模の大きな噴火があり、噴煙が海拔約 9 km まで上がって北西に流れ、火砕流が発生して東山腹を流下した。27 日の噴火でも噴煙が海拔約 9 km まで上がった。中旬には山腹で火山泥流や小規模な地すべりが時折発生した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

